

は燕麥は從來稈柔軟にして風雨に倒れ易きは畢竟硅質石灰分少くして且窒素之に勝るの故あるを知り三十一年より廐肥壹反歩百五十貫目を施せしものを七拾五貫目に減少したり然るに三十一年の成績は更に劣る處なきのみならず却て未だ曾て見ざる處の好結果を得たりエンシレーシは去る廿八年始めて試験せしに三十、卅一年の製造に係る分は極めて好成绩を得たり而して牧草を雨中に刈り入たる分は殊に良好なりし此の一事は牧畜事業上實に有益の實驗と謂はざるべからず何となれば乾草就中牧草を收穫する頃は恰も梅雨の期節にして其の困難實に名狀すべからざるか上に尙多量の乾草を徴取せしむるを屢なり若し夫れ降雨の霽るゝを待たんか期節を失ふの恐ある等多年牧草の耕作に困めり然るにエンシレーシに依るときは却て雨中に收穫するを利とするものなれば將來牧畜上有力なる一法則となるや疑なきを

信す

燕麥は收穫中降雨に遭ふときは穀粒脱落し大に損害を及ぼすものなれば可成急速收納するを利とすと雖も從來未だ其運ひに至らず耕耘家の憂ふる處なりしか三十一年漸く之を實行せしに果して百町歩の燕麥を三日間にして收納を了り一度も降雨に遭はざりしは未だ曾てあらざる成績なり而して同年度の收穫例年に比して二割以上を増收せしは多少肥料の關係もあるべしと雖も要するに迅速收納法採用の功與て多きに居るや明なり
 脱稈機は去る廿四年火災の爲めに焼失以來舊式の馬力脱稈機に依りて纔かに脱稈事業を繼續して今日に至れり然るに一方には勞銀の昇騰非常の勢にして可成人力を省き器械力に依るにあらざれば歳計に於て非常の損失あるは昭々として明かなり且當場の如き大仕掛の農業にては到底器械力にあらざれば事業の擴張

改善を望むへからざるを以て卅一年に於て新に脱稈機を購入せり
 耕耘收支比較表

年次	収入	支出	益	損
二十七年	九、一四七、七七七	九、〇八二、一八六	六五、五九一	
二十八年	八、七三九、九四九	一〇、九九五、八八〇		二、二五五、九三一
二十九年	一四、九八二、六〇四	一六、五六八、二三七		一、五八五、六三三
三十年	一三、五四九、八五九	一三、九五二、五七九		四〇三、七二〇
三十一年	二〇、九三六、三七三	二二、八七八、七四四		一、九四二、三七一
合計	六七、三五六、五六二	七三、四七七、六二六	六五、五九一	六、一八六、六五五
平均	一三、四七一、三二二	一四、六九五、五二二		一、二三四、二二八

耕耘收入表

科目	二十七年	二十八年	二十九年	三十年	三十一年	平均
乾草賣拂代	二、三三、八四一	一、九七、五五九	三、九六、三三四	三、二八、八三九	三、三四、一五〇	二、九六、〇〇四
穀物賣拂代	六、五〇〇、四四四	六、七八、五五〇	一〇、三三、三三三	九、五八、五九一	一六、三三、九八八	九、八三、四四九
菜根賣拂代	三〇、七三三	三三、五六六	五七、四四五	五三、八三五	一〇、四五、九六七	五六、五七七
不用物品賣拂代	三〇、五〇〇			三、三五〇	八七、五八〇	二八、六八〇
雑入	五三、三二二	一六、二四七	七三、八三三	一八、四三三	二五、七三六	一七、〇四四
合計	九、四七、七七七	八、三九、九四九	一四、九二、〇四四	三、五九、八五八	三〇、九六、七三三	一三、四七一、三二二

耕耘費支出表

科目	二十七年	二十八年	二十九年	三十年	三十一年	平均
俸給	一、四六、六六五	一、四〇、〇〇〇	一、五〇、三三三	一、三三、三三三	二、〇六、五五五	一、六四、三三三
給料	一、三三、〇〇〇	〇、〇〇〇	一、七、〇〇〇	〇、〇〇〇	二、〇〇、〇〇〇	一、七、〇〇〇
一時雇費	二、六八、三三三	三、三三、三三三	六、八八、三三三	四、七、三三三	七、三三、三三三	三、〇〇、三三三

大	麥	10,000
合	計	33,100
外		
牧	草地	150,000

收獲表

作物	年次	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年	平均
燕	麥	1,237,350	1,257,000	920,910	1,267,850	1,877,000	1,268,000
玉	蜀黍	1,506,200	2,258,200	2,222,200	3,257,000	3,257,000	2,257,000
陸	稻	35,100	40,250	42,200			35,850
落	花生	6,100千百十貫九百廿匁					
大	豆	8,000					

青	麻	4,850	18,850	2,250	6,700	3,300	3,550
葱	菘			1,200			1,200
胡	蘿蔔	500,000	500,000	500,000			500,000
イ	ン	0					17,000
燕	薯	4,850,000	3,000,000	1,257,000	2,000,000	2,222,000	2,222,000
甘	藪		9,150,000	3,010,000	2,222,000	80,121,000	12,222,000
エ	ン					2,200,000	2,200,000
大	麥		30,000				30,000
乾	牧草	1,257,000,000	10,257,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000
器	械	1,257,000,000	1,257,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000
手	刈	1,257,000,000	1,257,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000
燕	麥	1,257,000,000	1,257,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000	2,222,000,000

作物	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年	平均
陸稻	1,000,000	1,100,000	1,200,000	1,300,000	1,400,000	1,170,000
落花生	400,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	800,000
玉蜀黍	600,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	800,000
大麥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
薏苡	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
甘藷	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

每壹反步收穫表

作物	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年	平均
燕麥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
玉蜀黍	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
陸稻	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

作物	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年	平均
落花生	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大豆	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大麥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
薏苡	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
青麻	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
胡蘿蔔	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
マンゴールド	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
燕麥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
甘藷	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
乾牧草	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

耕作物每壹反步實費明細表

大 麥		苜 蓿			苧 草	
間 接 費	計	給 料 及 一 時 雇 費	種 苗 費	肥 料 費	間 接 費	計
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367
0.4520	1.0540	0.848	0.135	0.599	0.790	2.367

(備考) 牧草は播種のみ費用にして乾牧草は收穫のみ費用なり斯く區別したる譯は牧草は永年作物にして年々若干の反別を播種するも其年度に於て收穫するを得ず收穫は前々數年播種の分を併せ收穫するを以て混亂を避けんか爲なり若し毎反播種、收穫の費用を知らんと欲せば一反歩の收量を知り之に收穫費を乘し播種費に加ふべし
 間接費とは監督官の俸給、器具肥料運搬農馬飼料其他の雜費にして各作物に對し直接分割賦課するを得ざるものに屬す而して是等諸費は一纏とし本文の名稱を付し播種反別に同一比例を以て賦課したるものなり

耕作反別と農馬の割合比較表

年 次	耕作地	無耕地ヨリ刈收 スル野乾草	常備農馬
廿七年	1,171.00	3,111.50	3頭
廿八年	3,212.00	3,000.00	3頭
廿九年	3,916.00	7,033.50	3頭
三十年	3,950.00	4,216.50	3頭
三十一年	4,018.00	4,075.50	3頭
平均	3,677.00	4,588.50	3頭

但七分五厘の端數を生したるは毎年八、九、十月の三ヶ月間(乾草の收穫期節拾五頭の補助馬を置くを以て之を一ヶ年に通算する時は三頭七分五厘となるなり

農馬壹頭壹ヶ年間畜養費表

年 次	費用	飼料費
廿七年	26,277	26,277
廿八年	25,662	25,662
廿九年	31,517	31,517
三十年	26,736	26,736
三十一年	26,655	26,655
平均	27,369	27,369

種苗數量表

品目	年次	
	廿七年	廿八年
燕麥	四,六〇〇	三,二〇〇
玉蜀黍	一〇,〇〇〇	一三,〇〇〇
陸稻	一五,〇〇〇	〇,〇〇〇
大豆	一,五〇〇	—
胡蘿蔔	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
燕菁	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
落花生	五,五〇〇	—
甘藷	—	一〇〇,〇〇〇 _本
大麥	—	一八,〇〇〇
裸麥	—	〇,一〇〇
驅虫菊	—	五千本二合
平均	三〇,一〇〇	三〇,〇〇〇

肥料購入表

品目	年次	
	廿七年	廿八年
牧草	—	—
麻	—	〇,〇〇〇
平均	—	一,〇〇〇

每壹反步種苗表

品目	年次	
	廿七年	廿八年
過磷酸石灰	八,五〇〇 _買	一〇,〇〇〇
魚鱗	一八四 _依	—
人糞	一三七 _買	—
米糠	—	一,一七〇 _買
籾灰	—	—
平均	一,一〇〇	一,一〇〇
廿九年	—	一,〇〇〇
三十年	—	一,〇〇〇
三十一年	—	一,〇〇〇
平均	—	一,一〇〇

分 量	作物
六升	燕麥
二升	玉蜀黍
四升	大豆
六升	大麥
四升	陸稻
七升	落花生
一升	胡蘿蔔
二合	燕菁
四千本	甘藷
一斗	牧草

每壹反步肥料表

年次	燕麥		大豆		玉蜀黍		燕菁	
	概肥	過燐	完全肥料	概肥	過燐	概肥	過燐	
廿七年	概肥三百五十貫	過燐三百七十貫	完全肥料一貫目	概肥三百貫	過燐四百貫二百目	概肥三百貫	過燐三百七十貫	
廿八年	概肥三百五十貫	過燐三百七十貫	完全肥料一貫目	概肥三百貫	過燐四百貫二百目	概肥三百貫	過燐三百七十貫	
廿九年	概肥三百五十貫	過燐三百七十貫	完全肥料一貫目	概肥三百貫	過燐四百貫二百目	概肥三百貫	過燐三百七十貫	
三十年	概肥三百五十貫	過燐三百七十貫	完全肥料一貫目	概肥三百貫	過燐四百貫二百目	概肥三百貫	過燐三百七十貫	
三十一年	概肥三百五十貫	過燐三百七十貫	完全肥料一貫目	概肥三百貫	過燐四百貫二百目	概肥三百貫	過燐三百七十貫	
平均	概肥三百五十貫	過燐三百七十貫	完全肥料一貫目	概肥三百貫	過燐四百貫二百目	概肥三百貫	過燐三百七十貫	

年次	陸稻		落花生		胡蘿蔔	
	概肥	過燐	完全肥料	概肥	過燐	概肥
廿七年	概肥二百廿五貫	過燐五百貫目	完全肥料五貫目	概肥三百貫	過燐五百貫目	概肥三百貫
廿八年	概肥二百廿五貫	過燐五百貫目	完全肥料五貫目	概肥三百貫	過燐五百貫目	概肥三百貫
廿九年	概肥二百廿五貫	過燐五百貫目	完全肥料五貫目	概肥三百貫	過燐五百貫目	概肥三百貫
三十年	概肥二百廿五貫	過燐五百貫目	完全肥料五貫目	概肥三百貫	過燐五百貫目	概肥三百貫
三十一年	概肥二百廿五貫	過燐五百貫目	完全肥料五貫目	概肥三百貫	過燐五百貫目	概肥三百貫
平均	概肥二百廿五貫	過燐五百貫目	完全肥料五貫目	概肥三百貫	過燐五百貫目	概肥三百貫

各年肥料相場表

年次	品目	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年	平均
過燐酸石灰十貫目二付	壹圓十二錢壹厘五八	壹圓二十錢七厘六毛	壹圓二十八錢	壹圓二十八錢	壹圓三十五錢九厘五毛	壹圓二十四錢九厘七毛三六	
人糞一荷二付	九錢						
糠十貫目二付		壹圓七錢四厘八毛	壹圓十三錢二厘一毛	壹圓三十錢五厘三毛	壹圓五十三錢八厘四毛六	壹圓二十六錢二厘六毛六五	
篠灰一俵二付			五錢三厘	八錢	十錢	七錢七厘六六	

過燐酸石灰十貫目に付東京より牧場迄運賃

四錢七厘	四錢七厘	七錢四厘七	錢十四	四錢七錢五厘六毛
------	------	-------	-----	----------

農馬飼料表

月別飼料	至自		至自	至自
	十月	十一月		
玉蜀黍	四	升三合	三	升二貫
苜蓿			三	貫目三
野乾草			三	貫目三
鹽				

農馬飼料品數量表

品目	年次		品目	年次
	廿七年	廿八年		
玉蜀黍	六〇、〇八五	六八、一三五	五四、四三〇	六五、一五〇
苜蓿				七四、〇〇〇
野乾草				五八、五六八

農器輸入表

品目	廿八年		廿九年		三十年		三十一年	
	數量	代價	數量	代價	數量	代價	數量	代價
燕麥		六、五〇〇		一、〇〇〇				六、三三〇
鹽		四、四八五		三、五四八		九、四二五		六、三六四
野干草		四、二四九、一五〇		三、〇〇〇、〇〇〇		四、〇〇〇、〇〇〇		六、〇一五、三三九
甘藷				九、二八八、〇〇〇		九、七三三、〇〇〇		一〇、一六六、〇〇〇
大麥						一三〇、〇〇〇		九、七六、五〇〇

品目	廿八年		廿九年		三十年		三十一年	
	數量	代價	數量	代價	數量	代價	數量	代價
剪草機	二六	一、三〇〇					三〇〇	
ミチガンダ	一	四五〇	三	一、二六〇			二	九一、四
コルタハロー	一	二五〇						
カンクプラタ	一	二五〇						

種 類	耕 地 整 頓 期 節	播 種 期 節	收 穫 期 節	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類
全 額				全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額
六				六〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一四四、五九五				六〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

耕作物播種、收穫耕地整頓期節標準

種 類	耕 地 整 頓 期 節	播 種 期 節	收 穫 期 節	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類	種 類
收 穫 器 錄 及				全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額	全 額
一〇				六〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一〇				六〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

胡蘿蔔	野干草	牧草刈跡	大麥	秋播牧草	燕麥	大豆	甘藷	陸稻	玉蜀黍	燕麥	乾草燕麥及牧草
六月一日迄		九月三十日迄	十月五日迄	九月一日迄	八月十日迄	五月十三日迄	五月十三日迄	二月十五日迄	三月十五日迄	一月十五日迄	一月十五日迄
六月五日迄			十月十四日迄	九月十日迄	八月十四日迄	五月十四日迄	五月十四日迄	四月十日迄	四月十日迄	二月廿八日迄	二月廿八日迄
六月十日			十月十五日	九月十日	八月十五日	五月十五日	五月十五日	五月一日	五月一日	三月廿五日	三月廿日
六月廿日			十月二十五日	九月十五日	八月三十日	五月二十五日	五月三十日	五月八日	五月二十五日	四月二十日	四月十日
十二月一日	七月十日		六月十日	六月十五日	十二月一日	八月廿日	十月十五日	十月二十五日	十一月十五日	七月十日	六月十五日
二月廿八日	九月十五日		六月二十日	七月十日	十二月十日	九月十五日	十一月十五日	十月三十日	十二月廿日	八月十日	七月十日

但新墾地は總て前年度内に於て耕耨結了の事

耕作物株畦幅員表

株間	畦間	距離	
		作物	作物
	二	燕	燕
	尺	麥	麥
新墾地 三尺五寸尺	四 三尺五寸尺	玉蜀黍	玉蜀黍
	二	甘藷	甘藷
	尺	大豆	大豆
	二尺五寸	燕	燕
		薯	薯

樹林之部

二百十二

樹林は前期の方針に基き爾來銳意之か栽植に力め本期間に於て新植したる地積補植を除くも尙百四拾四町六畝拾六步(混濬林は何れか一方の反別のみを計算す)樹數に於て四拾九万七千貳百四拾壹本(勿論觀賞樹木をも含有す)之に前期の分を合算するときは無慮七百九町四反八畝貳拾壹步にして本場全面積の五分の一を領せり樹數は貳百六拾万三千八百七拾貳本の巨額に達し主要部の造林を終りしと雖とも放牧場内外に於ける大傾斜面の如きに至ては未だ少しも手を着くるの遑あらざりしは遺憾なれども是等は第三期に於て完成を期し將來林地一千町步樹數三百五拾万本に達せしめんとす而して其施業方法及費用は既に調査を結了したるを以て漸次着手せんとす

間伐は林産收入の目的にあらずして森林の養成保護上自然に現

出する副産物に外ならず然れども之を爲すには閉鎖の粗密を熟察し林相を破らざる様注意するは緊要の件たり本期間に於て間伐したる數量并に代價は別表の如くにして殊に三十三一年の兩年に於て増加せしは既に業に疎伐年限を經過したるものと同年に至り一時に施行したるか故なり而して間伐は作業の善悪により森林に及ぼす利害に大關係あるを以て牧場に於て擇伐の上或は材の儘或は薪或は丸太等となして賣却するものなり

薪炭林は皆伐するを以て林地の儘賣却せり用材林の如き土地の適否を察し追々高等なる樹種に更新せんと欲するも當場の實驗上杉檜の類は被蔭木の下にあらされは生育を遂げず且貳拾年以上生育したる松樹の下にあらされは徒費多きを以て本期間に於ては僅かに杉五千六百本檜五千本を栽植したるに過ぎず爾今松の生育するに隨ひ漸次増植せんと欲するなり廿八年廿九年の春

二百十三

期駒之頭三里塚の杉林内に「サルメンテウ」なる一種の毛虫を發生し杉葉を蠶食し頗る害をなせしも自然に消滅せり

樹林收支比較表

年次	收入	支出	益	損
廿七年	四四九、五八三	五五一、一一九		一〇一、五三六
廿八年	七八五、〇八九	四八八、七一六	二九六、三七三	
廿九年	九三五、七〇三	五〇四、九四八	四三〇、七五五	
三十年	三、八一四、三四四	一、四三六、一三〇	二、三七八、二一四	
三十一年	二、三三三、四七二	一、四三七、六六九	八九五、八〇三	
合計	八、三一八、一九一	四、四一八、五八二	四、〇〇一、一四五	一〇一、五三六
平均	一、六六三、六三八二	八八三、七一六四	七七九、九二一八	

樹林收入表

科目	廿七年度	廿八年度	廿九年度	三十年度	三十一年度	平均
伐木賣拂代	四四九、五八三	六五、〇八九	九五、七〇三	三、八一四、三四四	二、三三三、四七二	一、六六三、六三八二
合計	四四九、五八三	六五、〇八九	九五、七〇三	三、八一四、三四四	二、三三三、四七二	一、六六三、六三八二

樹林費支出表

科目	廿七年度	廿八年度	廿九年度	三十年度	三十一年度	平均
俸給	一四〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇
給料	一三、二一〇	一七、〇一〇	八、三〇〇	五、七五〇	五、二〇〇	一三、八〇〇
一時雇費	三、三三三	一、〇〇〇	三、七三三	一、三三三、〇〇〇	一、〇〇〇	三、四六六
器具費					五、〇〇〇	五、〇〇〇

種 苗 費	營 繕 費	雜 費	合 計
二五、〇七			五五、二九
六、三三〇		〇、三三〇	四八、七六
二八、三三〇		〇、三三〇	五〇、四八
一五、五〇		一、三三〇	一、四三、二三〇
三六、〇〇〇	五、〇二〇	五、〇一〇	一、四三、七六九
三、四三三		一、二〇一	八三、七六

三十一年末樹林反別表

松	櫟	杉	扁	楸	竹
四百十七町八反四畝五步	二百八十五町四反四畝十六步	松ト混淆林ヲ爲スヲ以テ其反別ハ松林ノ内ニ含有ス	柏	松ト混淆林ヲ爲スヲ以テ杉ト同様ナリ	一反步
					六町一反步

合 計
七百九町四反八畝二十一歩

樹林本數表 三十一年末現存

松	杉	扁	櫟	樟	楸	椎	桐	計
百二十九万千六百六十本	三十九万三千三百九本	柏 ヒノキ 一万八千二百十五本	クヌギ 八十六万九千三百四十九本	六千五百十本	カシ 三百本	千六百六十四本	千八百六十本	二百五十八万五千五百七本

觀賞樹木本數表

櫻	一万七千二百二十六本
七葉樹	四千二百二十八本
浮羅羅勒	千十一本
計	二万二千三百六十五本

植樹反別并本數表

松	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年	合計
檜	九十九町二反八 畝十步	補植	十町九反五畝十 步	十九本	補植	百十町二反三畝 廿步
杉	六町一反六畝六 步	三万五千本	十四町二反五畝 廿五步	四町七反九畝十 九步	四町六反一畝六 步	二十九町八反二 畝廿六步
柏	四千四百五十本	五千本	五万三千九百三 十本	二万七千五百八 十九本	二万四千七百八 十六本	十三万六千三百 五十五本
楡	二千三百本	六千本	六千本	六千本	六千本	百十町二反三畝 廿步
桐	二百本	六十六本	六十六本	二百本	二百本	百十町二反三畝 廿步
苦竹	四町步	補植	四町七反九畝十 九步	四町七反九畝十 九步	四町六反一畝六 步	百十町二反三畝 廿步
合計	百三十三万七千二 百八十本	五万七千本	五万二千五百五 十本	三万五千六百五 十五本	三万二千六百六 十六本	三十三万七千二 百八十本

樹林間伐表

樹種	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年	合計
杉	—	五百本	五千百本	—	—	五千六百本
柏	—	—	—	五千本	—	五千本
楡	四千四百五十本	—	—	三千本	千六百八十本	九千百三十本
桐	二百本	—	—	六十六本	二百本	二千三百本
苦竹	四町步	補植	—	—	—	四町步
合計	百三十三万九千五 百三十本	八万七千八百十 本	十一万五千五百八 十本	三万五千六百五 十五本	三万二千六百六 十六本	四十九万七千二 百四十一本

合 計	杉	松
六千七百二十本	七百二十本	六千本
七千十九本	二千十二本	五千七本
七千七百十本	千五百本	六千二百十本
六万三千三百四十本	七千八百三十五本	五万三千五百十本
三万八千二百二十七本	七百二十七本	三万七千五百本
十二万二千二十四本	一万二千七百九十四本	十万八千二百三十本

間伐收入表

計	用 材			收 入 年 次
	竹	杉	松	
一七、〇〇〇	二五、五〇〇	三、六〇〇	一五〇、〇〇〇	廿七年
一七、五〇〇	二〇、〇〇〇	八、三〇〇	八八、一〇〇	廿八年
三三、〇〇〇	—	一六、一五〇	一九四、九〇〇	廿九年
二五、三〇〇	一五、〇〇〇	五〇、三九九	一、七九、五〇〇	三十年
一三、〇〇〇	—	六、〇〇〇	一、二九、七〇〇	三十一年
四、二四九、四〇〇	四、二五〇	八八、五九九	三、三二、三八八	計

皆伐收入表

薪炭材林	收 入	
	年 次	計
三、三〇〇	廿七年	廿七年
五、三〇〇	廿八年	廿八年
五、七〇〇	廿九年	廿九年
一、二四九、五〇〇	三十年	三十年
三〇、一五〇	三十一年	三十一年
三、三〇〇	計	計

樹木栽植期節表

植 付	播 種	期 節 / 樹 種	
		期 節	樹 種
三月十日マテ	三月廿日ヨリ	松	松
四月十五日マテ	全	杉	杉
四月二十日マテ	全	扁 柏	扁 柏
全	三月十五日マテ	櫟	櫟
全	三月二十日ヨリ	櫻	櫻
全	三月十五日マテ	橘	橘

事務所之部

本期に於ては前期と更に異なる處なく經濟も毎年若干の餘裕を生じつゝ無事平穩に経過せり其他本期間に起りたる二三の要領を列擧すれば左の如し

一廿八年五月京都に開きたる第四回内國博覽會に參考品として左記の如く出品陳列せり而して馬二頭は陳列後之を牧場に引戻せり其監督として技手一名牧夫二名を出張せしめたり

サラブレッド種牡馬第四蘭號 黒鹿毛五才 五尺

二回雜種牡馬 大宮號 栗 毛三才 四尺六寸

馬齒形玉蜀黍種子 壹升

レッド、トップグラス乾草 一締(拾四貫五百目)

一廿九年十月中暴風あり家屋樹木の損害甚しきも農作物は損害極めて少かりし

一廿九年九月特別會計規則を改正し而して從來の興業資を元資に營業資を豫備資と改稱せられたり

一三十年五月物品取扱順序を定め其受拂を明瞭にし各掛をして物品保管の責に任せしむ

又官舎貸與規則を定め家屋及付屬物品等保存上の取締を嚴にし其修繕に就ては官費に屬するものと拜借人の私費に屬するものとの區別を明にし以て濫費紛雜の患なからしむ

一三里塚小學校は多く牧場員の子弟を教育する所おれとも費用の支へざるが爲め更に振はざりしが同校の維持資金として二十五年より二十九年に至る五ヶ年間に金貳百五拾圓を下付し學事を奨勵せり

一本場は多數の雇人を使用するを以て時に俄かの怪我疾病に罹ると少からず去れとも一の開業醫あらざるを以て常に成田佐

倉に醫師を迎ふるの例なりしも斯くては意外の費用を要し到底農牧夫の負擔に堪へざるのみならず應急の手當にも困難を極めたるを以て三十一年より千葉縣醫師今野寛を聘し醫員を托し毎年手當として金百圓を付與せり

一三里塚兩國の消防組合は從來より牧場との關係不少されども器械等不完全なるを以て此際器械を購入するの議熟したるに依り三十一年中金三百圓を補助せり

一將來益々事業を擴張改良せんと欲するを以て到底既定の人員にては不足を告ぐるに依り左の如く定員を増加し適任者を得るに從ひ漸次採用せんとす

屬技手及其補欠雇
 牧場雇
 七人
 農牧夫
 拾三人

一事業を改良擴張せんとするときは益々人材を養成せざる可らず故に相當の素養あるものにして少壯有爲の見習生を置くべし直ちに五名を募集入場せしめたり

現在人員

明治三十三年十一月入場	主馬寮技師	新山莊輔
全 三十一年十一月入場	主馬寮技手	辻正章
全 三十一年四月入場	主馬屬	佐々木輯一
全 十三年九月入場	主馬寮技手	伊集院兼孝
全 廿九年六月入場	全	新村直右衛門
全 廿六年十一月入場	全	菅沼只三郎
明治廿八年七月入場	全	黒田房次
全 廿五年二月入場	全	窪田五郎
全 三十年十二月入場	主馬屬	秋元尙孝

全	廿七年二月入場	全	勳八等	仁科新
全	二十九年十二月入場	全	主馬寮技手	小野直衛
全	廿一年三月入場	全	全	田近幸太郎
全	年十月入場	全	勳八等屬	三浦銀次郎
全	三十一年三月入場	全	主馬寮技手	佐々木熊太郎
全	年四月入場	全	主馬寮技手	池田冷三郎
全	十八年十一月入場	全	主馬寮技手	杉田種吉
全	廿一年十一月入場	全	主馬寮雇	戸村市太郎
全	廿五年十一月入場	全	全	笠原甚太
全	廿九年六月入場	全	全	青木敏亮
全	三十一年三月入場	全	全	岡部明澄
全	十二年一月入場	全	全	大泉新五郎
		全	全	齊藤喜三郎

全	三十年十二月入場	全	平岡又三
全	三十一年十二月入場	全	神代徹三

牧場員分掌

下總御料牧場長	主馬寮技師	新山莊輔
場長代理心得	主馬寮技手	辻正章

庶務掛

兼會計掛	主馬屬	秋元尙孝
全	全	池田冷三郎
付屬	小使	松本長太郎
	全	糸川源助
	十一等牧夫	小川伊助

會計掛

兼庶務掛	主馬屬	佐々木輯一
------	-----	-------

全

育馬掛

主理兼衛生掛

兼樹林掛

全

仁科新

二百二十八

主馬寮技手 菅沼只三郎

全 田近幸太郎

主馬寮雇 青木敏亮

全 大泉新五郎

全 神代徹三

付屬

四等牧夫 岩館金藏

五等牧夫 出山政五郎

全 山田啓次郎

六等牧夫 安田松五郎

七等牧夫 石井政吉

全 平山元助

八等牧夫 川島春吉

九等牧夫 荒井文之助

全 佐久間勝藏

十等牧夫 酒井福松

全 土屋清左門

全 越川長太郎

全 石井壯次郎

全 藤崎万藏

全 小川梅太郎

十一等牧夫 岩澤文治

十一等牧夫 平山秀三郎

全 升方八太郎

育牛掛

二百二十九

主理兼育馬掛
衛生掛

主馬寮技手 窪田五郎
 牧場雇 吉村爲之助
 六等牧夫 林淺吉
 八等牧夫 萩原治助
 九等牧夫 土屋彌助
 十等牧夫 黒川小文治
 全 鈴木和十郎

育羊掛

付屬

主馬寮雇 笠原甚太
 七等牧夫 萩原菊松
 八等牧夫 竹尾善太郎
 十一等牧夫 古川平太郎

衛生掛

付屬兼育牛掛

牧場雇 渡邊清

耕耘掛

主理兼育羊掛主理
樹林掛主理

主馬寮技手 辻正章

兼育馬掛樹林掛

全 伊集院兼孝

全

全 新村直右工門

兼樹林掛

全 黒田房次

主馬寮雇 戸村市太郎

全 岡部明澄

全 齊藤喜三郎

全 平岡又三

付屬

牧場雇 鈴木金次郎

全 小川爲吉

七等農夫 野村倉吉

付屬

主馬寮技手 三浦銀次郎
 全 杉田種吉
 八等牧夫 内田藤吉
 全 富澤熊次郎
 十等牧夫 田中四郎吉
 十二等牧夫 杉本惣太郎
 全 櫻井音次郎

退場人名

入場年月	退場年月	事由	由官等	姓名
廿八年一月	廿九年九月	解雇	主馬寮雇	品川彌一
十八年九月	三十年十一月	退職	主馬屬	波邊美雄
廿九年十二月	三十年十二月	外山牧場へ轉勤	主馬寮雇	波邊利三郎

二十年三月	三十一年三月	本寮詰	主馬屬	鈴木龜次郎
廿五年十二月	全	全	主馬寮雇	大森温柔

明治廿七年度收支比較表 (△印は損失以下全)

科目	目	收	入	支	出	差引	益損
事務所		四、六四七、八七一		三、九三四、一五三		七二三、七一一	
育馬		八、四四〇、二三〇		八、三九二、四三〇		四七、八〇〇	
育牛		一、八二二、〇六七		一、五七八、三〇六		二三三、七六一	
育羊		一、四三七、一〇〇		一、〇七六、九〇二		三六〇、一九八	
耕耘		九、一四七、七七七		九、〇八二、一八六		六五、五九一	
樹林		四四九、五八三		五五二、一一九△		一〇一、五三六	
乳牛		一、九九二、二〇一		一、五六七、三五七		四二四、八四四	

合	計	二七、九二六、八二九	二六、一八二、四五三	一、七四四、三七六
---	---	------------	------------	-----------

二百三十六

(備考)

事務所收入中利子四千參百八拾七圓拾九錢九厘あり

本表の外本年度に於て事業擴張費に九百六拾八圓五拾四錢七厘臨時費に四千七百六圓參錢參厘の支出あり

明治廿八年度收支比較表

科	目	收	入	支	出	差	引	益	損
事務所		五、三〇七、〇三九		三、七七九、〇二一				一、五二八、〇一八	
育馬		一〇、五六五、〇八七		九、五八二、二一一				九八二、八七六	
育牛		一、七二二、八四二		一、五七六、三二四				一三六、五一八	
育羊		一、八五〇、四六一		一、〇八二、五七七				七六七、八八四	
耕耘		八、七三九、九四九		一〇、九九五、八八〇△				二、二五五、九三一	
樹林		七八五、〇八九		四八八、七一六				二九六、三七三	
乳牛		一、九二六、四〇九		一、七六六、八五六				一五九、五五三	
合計		三〇、八八六、八七六		二九、二七一、五八五				一、六一五、二九一	

合	計	三〇、八八六、八七六	二九、二七一、五八五	一、六一五、二九一
---	---	------------	------------	-----------

(備考)

事務所收入中利子五千七拾貳圓七錢五厘あり

本表の外本年度に於て本省特別交付金百九拾五圓四拾七錢の收入及臨時費に千貳百拾貳圓參拾壹錢四厘の支出あり

明治廿九年度收支比較表

科	目	收	入	支	出	差	引	益	損
事務所		五、四四二、五一二		三、八八三、一〇七				一、五五九、四〇五	
育馬		一〇、三三七、六七八		九、九八二、三七六				二五五、三〇二	
育牛		二、八八〇、一七八		二、二一一、九一五				六六八、二六三	
育羊		一、八九六、六〇五		一、三八四、八一五				五一一、七九〇	
耕耘		一四、九八二、六〇四		一六、五六八、二三七△				一、五八五、六三三	

二百三十七

樹	乳	合
林	牛	計
九三五、七〇三	二、二六七、四〇〇	三八、六四二、六八〇
五〇四、九四八	二、二五七、五五六	三六、七九二、九五四
四三〇、七五五	九、八四四	一、八四九、七二六

(備考) 事務所収入中利子五千百拾貳圓貳拾四錢五厘あり

本表の外本年度に於て臨時費に千圓の支出あり

明治三十年年度收支比較表

科	目	入	支	出	差	引	益	損
事務所	所	五、七五九、四一七	三、八四〇、三四一	一、九一九、〇七六				
育馬	馬	一〇、一三四、五四五	一〇、〇四七、三五七	八七、一八八				
育牛	牛	二、五三二、五〇九	二、八三〇、七八一	二九八、二七二				
育羊	羊	二、三二四、八七一	二、六三七、七二一	三一三、八五〇				
耕	耘	一三、五四九、八五八	一三、九五二、五七九	四〇二、七二一				
合	計	四〇、二四一、六六三	三六、七二八、二五七	三、五二三、四〇六				

樹	乳	合
林	牛	計
三、八一四、三四四	二、一二六、一一九	四〇、二四一、六六三
一、四三六、一三〇	一、九七三、三四八	三六、七二八、二五七
二、三七八、二一四	一、五二、七七二	三、五二三、四〇六

(備考) 事務所収入中利子五千四百參拾八圓八拾九錢四厘あり

本表の外本年度に於て事業擴張費に貳万六百五拾五圓四拾六錢六厘臨時費に千

圓の支出あり

明治三十一年年度收支比較表

科	目	入	支	出	差	引	益	損
事務所	所	四、四五六、八八三	六、八六〇、二五二	二、四〇三、三六九				
育馬	馬	一五、八九一、一七三	一一、八一四、一一三	四、〇七七、〇六〇				
育牛	牛	四、〇一七、一三〇	四、〇八六、七五七	六九、六二七				
育羊	羊	二、〇六五、六五五	二、〇二五、七四四	三九、九二二				

科目	年次	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年
耕	耘	二〇、九三六、三七三		二二、八七八、七四四△		一、九四二、三七一
樹	林	二、三三三、四七二		一、四三七、六六九		八九五、八〇三
乳	牛	三、四二九、〇八六		三、四一一、二〇一		一七、八八五
合	計	五三、一二九、七七二		五二、五一四、四八〇		六一五、二九二

(備考) 事務所收入中利子四千百參拾圓四拾五錢壹厘あり

本表の外本年度に於て臨時費に千五百圓の支出あり

事務所收入表

科目	年次	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年
雑	入	二〇七、九五二	二三四、九六四	三三〇、二六七	三二〇、五二三	三三六、四〇二
不用物品賣拂代		五二、七二〇				
過年度收入						〇、〇三〇
寄託收益		四、三八七、一九九	五、〇七二、〇七五	五、一二二、二四五	五、四三八、八九四	四、二三〇、四五二

事務所費支出表

科目	年次	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年
合	計	四、六四七、八七一	五、三〇七、〇三九	五、四四二、五二二	五、七五九、四一七	四、四五六、八八三
俸	給	一、九七〇、九五二	二、二一一、九三六	二、二九八、七二〇	二、四三九、九四六	三、〇〇五、〇二二
給	料	四七二、三五〇	三三四、八〇〇	三一九、二五〇	三三八、一〇〇	三四五、九五〇
一時	雇費	四八、九六三	二七、〇六五	六五、一六〇	七七、九四〇	二〇六、五五五
手	當					七三、八八九
旅	費	一〇八、九〇〇	二四七、三一〇	二三八、二九〇	二五八、六四〇	七七七、三〇〇
賄	費	三、八〇〇	二、四〇〇	二、三五〇	一、九〇〇	七〇〇
器	服費	八〇、二四一	二九、三九一	四九、一〇八	四七、三八〇	六〇八、五七九
通	信費	五三、〇〇〇	五四、八八〇	四九、三八〇	五三、〇〇〇	七二、〇〇〇

獸畜醫藥費	七四、一三三	九一、四六一	七八、五七一	五〇、〇九四	七八、七九七
營繕費	五三六、八一四	一二〇、五三八	一二四、四九六	六五、五五四	四六八、六五九
雜費	五八五、〇〇〇	五五四、五四五	五三五、二九〇	四七六、〇三七	一、〇二九、六四三
別年度支出		一三、〇九五	八、二〇二		三、五五八
寄托損失		一〇一、六〇〇	一一四、三〇〇	三一、七五〇	一八九、六〇〇
合計	三、九三四、一五三	三、七七九、〇二一	三、八八三、一〇七	三、八四〇、三四一	六、八六〇、二五二

營業繕

科目	年次	廿七年	廿八年	廿九年	三十年	三十一年
二號官舎増築		四三六、三四〇				
土堤新築		一三五、三三五				一六三、四〇〇
新堀羊舎新築					八〇七、四二五	

御料乳牛場表門新築			四四、六五〇		
玉蜀黍收穫			四四五、一五七		
合計	五七一、六七五		一、二九七、二三二		一六三、四〇〇

家屋棟數 (三十一年末日現在)

名稱	事務所	詰所	官舎	牧夫舎	農夫舎	馬舎	牛舎	羊舎	豚舎	板庫	收穫舎	釜屋浴室 雪隠等	通計
棟數	一	三	一三	二	一八	二七	四	三	一二	一一	七	一〇三	二〇四

明治三十一年十二月に更められたる牧場會計左の如し

牧場會計

第三十一條 牧場會計は各牧場を分畫經理す

第三十二條 牧場會計は御資部より分置の資金を元資とし而して事業の収益及特別收利其他の雜入を以て一切の事務費事業費等を支辨するものとす

第三十三條 本會計は主馬頭之を主管す

第三十四條 元資の勘定に屬すべきものは事業の基に供する土

地(御料部現有の土地を供充したる分は)家屋種畜の代價に止む

元資の勘定に屬する家屋の修營改造費罹災の損失又は種畜換置

の差損斃亡の損失等は事業部の勘定に立て其損失を元資に及ぼ

さざるものとす

第三十五條 牧場會計は收入を支出に充用するまでの遊金も亦

利殖するを得(内藏頭に寄託すること)

豫備資及遊金より生ずる利子は特別收利とし之を事務費事業費

に補充することを得

第三十六條 主馬頭は毎年度元資決算書を調製すべし其調製呈

出は通則第十五條に依るべし

第三十七條 生産物若くは種畜の賣却は左の如く處分すべし

一 生産物若くは種畜を賣却すべき時市場へ持出し若くは數人
を集めて賣却し得るときは競争に付すべし主馬寮用諸官廳用
其他相對を以て賣渡すべきときは其時價を標準として其價格
を定むるよとを得

二 牧場事業上に轉用すべき種畜若くは生産物は時價を酌量し
て標準價格を定め之に據りて賣買の順序を爲すべし

第三十八條 家屋種畜等元資に屬する物件は元資物件基帳を置
きて之を計理し又生産の諸畜菜穀木材雜品并牧場所要の器具飼
料物品等は帳簿を置きて之を計理し常に其現在額と對照査覈す
べし但し年度末現在額は次年度繰越に立つべし

第三十九條 牧場の會計を便宜に由り主馬本寮に於て整理する
ときは主馬頭は會計順序中に規定し又は特に稟議し宮内大臣の
認可を請けて適宜の金額を其牧場に分置保管せしめ實際の支拂

に充用することを得

下總御料牧場事業報告 第二期の部終

明治三十三年八月七日印刷

明治三十三年八月二十日發行

下總御料牧場

印刷者

東京々橋區加賀町十二番地

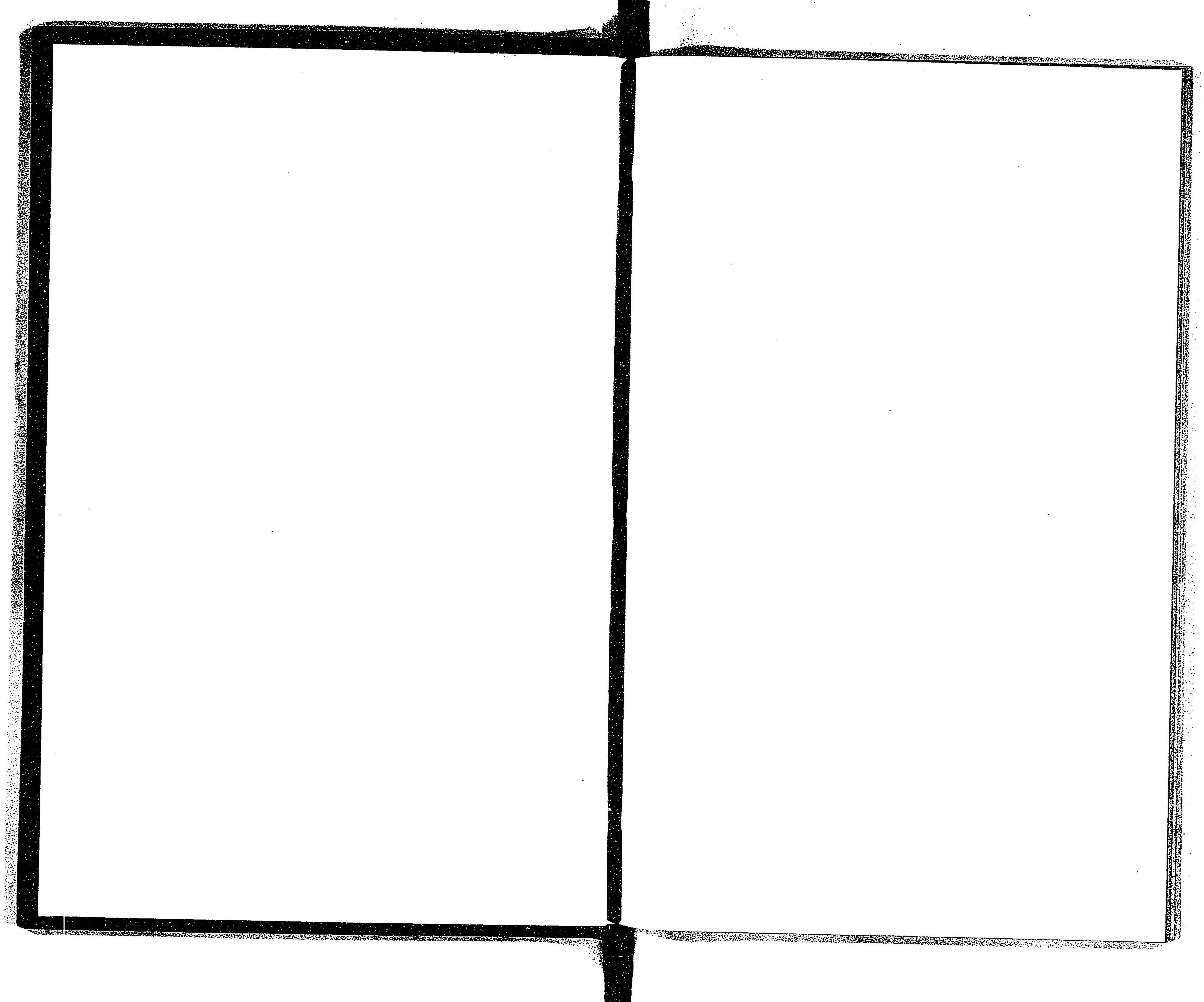
酒井佐緝

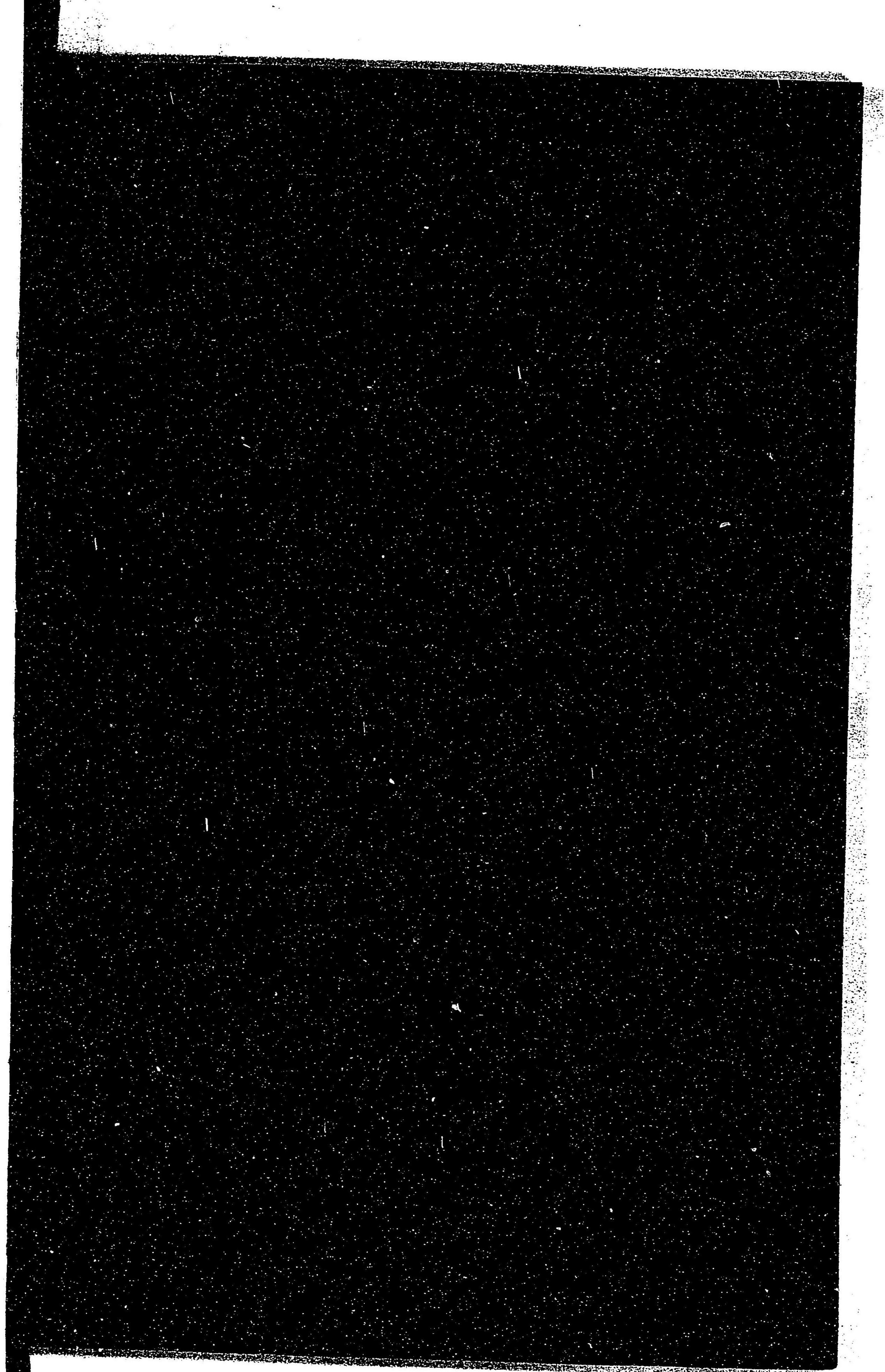
印刷所

東京々橋區加賀町十二番地

興雲閣

Z-3P-26





44
217

203211-001-3

44-217

下総御料牧場事業報告

第2, 3期

下総御料牧場

M33, 37

EDK-0109



